

平成 29 年度 ふるさとものづくり支援事業

市町村名	北海道北竜町	
事業名	ハイオレイックひまわりを活用した新たな特産品づくり事業	
企業等概要	企業等の名称	株式会社北竜振興公社
	代表者氏名	代表取締役 佐野 豊（北竜町長）
	所在地	北海道北竜町字板谷 1 6 3 - 2
	連絡先	0164-34-3321
	U R L	http://www.town.hokuryu.hokkaido.jp/ （北竜町役場）

平成 30 年 11 月現在

【事業者概要】

昭和 46 年設立の第 3 セクターで、代表取締役は佐野町長。事業内容は、道の駅の機能を有する温泉、ホテル、レストランの営業。

【日本一を誇るひまわりの里・北竜町】

町花のひまわりを核としたまちづくりによって新たなコミュニティが形成され、まちへの愛着心と一体感が醸成されている。

ひまわりの作付面積 100 ヘクタールは全国一。毎年、北竜町ひまわりの里で開催される「ひまわりまつり」では、23 ヘクタールの敷地に 150 万本の花が咲く姿が話題を呼び、20 万人以上の観光客が訪れる。

最近では映画の撮影ロケ地となるなど、芸能人の来訪も増えている。



【事業概要】

◇背景・経緯

かつて農協職員がヨーロッパへの農業研修中に、旧ユーゴスラビアで咲くひまわりに注目したのがきっかけとなり、町をあげて 1 戸 1 アールの作付け運動が開始された。その後、ひまわりの種から採取されるオイルを試行錯誤のうえ商品化。しかしながら、価格が高い一方で、品質が安定せず、ひまわりオイル事業は休止を余儀なくされた。

ひまわりの里を標榜する町としては、関連商品の開発が不可欠と判断し、ひまわりオイル事業の再挑戦に至った。

◇開発概要

- ・ 食用ひまわりから搾油したオイルを、町の特産品として商品化。オレイン酸の含有量を高めることで、悪玉コレステロール（LDL）を減らす効果にも期待。
- ・ 食用ひまわりの生産は農家にも協力を仰ぎ、農地は全体で 10ha。食用となるので、感染予防のため観賞用のひまわりとは農地を分けている。また、種も自家種苗ではなく毎年新しく購入。
- ・ 搾油は名寄市の民間会社に委託。精製回数をさらに増やした万能オイルは別名で別途商品化されている。



初期商品



商品化された「ひまわり油」

【成果】

◇地域性・特徴

① 観光資源を活かした商品開発

北竜町の観光資源となっているひまわりを活かした商品開発が実現した。

一度商品化されたという過去の経緯もあり、ひまわりオイルは長らく町民に親しまれているため、新商品は町のPR用や手土産用として好評を博し、大量購入する人が続出した。

② 健康志向に沿った機能性成分を確保

オレイン酸（LDLのみを低下）とビタミンE（抗酸化作用）の豊富なオイルとして、広報を展開。摂取の方法としては、熱を加える炒め物用だけではなく、みそ汁、納豆、ヨーグルトなどに直接かけて食べられている。

◇商品化・販売先

今回の事業により3,800本（1本100グラム・税込み972円）を製造したところ、事前に行われたPRイベントの効果もあり、町民を中心に好評で完売。追加で製造した600本も、ほぼ完売の状況。



ひまわり関連商品とともに販売

販売場所は公社が運営する道の駅及び地元スーパー。イベント時の即売商品としても提供し、特に「ひまわりまつり」の来場者に好評。

【今後の展望】

町外で売るほどの製造量が確保できていないため、現在の販売場所は町内に限られているが、ひまわり生産・製造が軌道に乗れば、近隣の市町にも販路を広げる予定。

ただし、今夏（H30年）のひまわりは、天候不順な中で伝染性の病気（菌核病）にかかり、質の高い種が十分に採取できず昨年の収量より減少するのではないかと見込まれている。*病気にかかったひまわりは成長しきれず、茎や花の部分も含め全体が真っ黒に染まる。



収穫前のひまわり

新鮮で質の高い商品化は実現したが、農地を拡大しない限り大量生産ができないので、「売りさばく商品」ではなく、今後も北竜町のシンボルという位置づけの下、町と公社で販売戦略が練られていく予定。



北竜町位置図



道の駅・サンフラワー北竜